

10月・月例研修会一泊旅行

感動の「芦生の森」

日程：10月20日～21日

参加者：27名（男性17名、女性10名）

20日 数日前までの晴れマークが、直前に2日とも曇り一時雨の予報。天気回復を祈って出発。◇2時間弱で「常照皇寺」へ到着。早くも小雨がぱらついて来る。650年前に光厳上皇によって開かれ、歴代天皇の帰依を得た臨済宗禅寺。皇室ゆかりの寺だけに間取りの数も多く、広い。堂々たる雰囲気、静寂に包まれている。庭園には国の天然記念物九重桜もあり、印象深い寺院であった。◇次の「かやぶきの里」のお蕎麦屋さんで昼食。小雨は続いている。傘をさして地元のボランティアガイドの案内で、村内を散策。「日本の原風景」と云われ、連なるかやぶきの屋根が美しい。◇小休憩後、途中、宿のマイクロバスに乗り換えて、本日の宿の「芦生山の家」に到着。相変わらず外は雨のため、宿のご主人今井さんと明日ガイドをしていただく地元の木工業者である鈴木さんに、「芦生の森」の解説を小1時間していただく。◇「芦生の森」の約8割にあたる4,200haを、1921年(大正10年)に、京都帝国大学(文部省)が地権者より99年契約で演習林として租借。このため長く管理されて、原生環境に近い植生が残されてきた。

日本海側気候帯と太平洋側気候帯が接していて、植種が多様で巨木も多い。また、シカ、クマ、イノシシなど多くの動物も生息している。

◇お話の後、入浴して、夕食。地鶏の鳥すき。大盛り上がり。外は小雨が続いている。日頃から晴れ男と自負されている今回の幹事でもある川井さんが、「明日は自分の念力で雨が降らないようにする。」と挨拶の中で宣言され、喝采を浴びた。終わって隣室のロビーで直ちに二次会。ほぼ全員が参加されこちらも大賑わいであった。

21日 朝8時に2台のマイクロバスに分乗して、2名のガイドさん(昨日の鈴木さんと京大研究林事務官の長野さん)と「芦生の森」へ出発。

標高300mの「山の家」から同640mの「長治谷作業所」へ一気に上がる。天気は雲がうすく、遠くには何と青空もチラホラ。川井さんの念力、恐るべし。全員感謝!感謝!車中、日も照りだした。「トチノキ平」で途中下車して由良川沿いを15分程歩く。森の大きさ、深さ、美しさ(黄葉もかなり混じる)に圧倒される。樹齢300年の苔むしたトチの巨木の前で記念撮影。



車窓から芦生最大と云われるカツラの巨木(樹高38m、幹回り9.95m、樹齢300~400年)を観察。50分ほどで「長治谷作業所」に到着して、ここから「杉尾峠」まで3時間のトレッキング。平坦な道。すぐに杉の人工林。ツキノワグマによって樹皮をはがされた樹がある。中には穴の開いた樹もある。「野田畑湿原」を通る道の左側は原生林。さらにトチ、ブナ、ミズナラの大木の間を進んでいく。モリアオガエルの産卵池。熊の冬眠跡と云われるトチの大木の洞。ナラ枯れによって朽ちて倒壊したミズナラの巨木。この後、落葉の間からわずかに湧水がしみ出る「由良川の源流域」に出て、ほどなく本日の目的地「杉尾峠」(標高765m)に到着。日本海(若狭湾)、冠島、丹後半島等がかすんで遠望できる。昼食後、15分程下って、待機するバスに乗り「山の家」へ。帰路「ひよし温泉」で汗を流して午後5時30分に高の原駅前に帰着。

◇「大きな自然に感動した。」「初めての経験」「ガイドの説明が素晴らしかった」「川井さんの天気男は神話になった。感謝!」などが、参加者の感想であった。
(寺田 孝)

